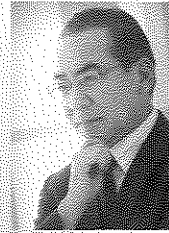


～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

[第108回] アンサーコレクター達



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター(福岡市、URL: <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

「〇〇はどうしたら良いですか?」という質問を受けることが増えてきました。以前ならば「〇〇についてこうしたいと考えているのですが、どう思われますか?」という【自分の思考】に対する意見を求められていたのですが、最近は直接【答】を要求されます。「あなた自身はどう思っているのですか?」と尋ねてもなかなかきちんと自分の考えを表明してくれません。

情報過多時代の幼さ

1995年のWindows95の登場から2008年のiPhoneに代表されるスマートフォンの普及により情報通信インフラは格段に整備されました。同時にそれらのハードウェアに適したアプリの普及も進み、FacebookやTwitterなどが使われるようになり、最近ではInstagram、YouTube、LINEが個人的な使用だけでなくビジネスの世界でも活用されるようになっていきます。

その結果、凄まじい情報が24時間絶え間なく空間を流れ続け、我々の身の回りに押し寄せてきました。いわゆる「情報過多」と言う環境の中にわれわれは置かれています。ニュースの見出し、株価や為替相場、スポーツの結果、明日の天気、訪問先の情報、芸能人のスキャンダル、遠い国の出来事まで指先を操作するだけで知ることができるようになりました。この手軽さと便利さは一度手にしてしまうと麻薬的なほどの魅力を持ち、絶えず画面を覗き込んでしまいます。そして、瞬時に答えにたどり着いてしまったような誤った状態に陥ってしまいます。

外部脳という名の退化

「スマートフォンの登場によってわれわれは新たな外部脳を獲得したのだ!これからは昔のような勉強をしなくても最短でベストな選択ができるようになる!大学など行かなくてもどこでも勉強はできるのだ!」とある人物が叫んでいました。確かに便利は良くなりましたが、同時に最先端のデジタル機器を使用することにより、家族の携帯の電話番号や会社の電話番号すら覚えていない人

達が増えているのも事実です。挙句、晩御飯のメニューをサイトから選んだり、休日の過ごし方をネットで探したり、食事をする場所さえネットのランキングで決めたりします。これらはある意味人間の能力としての「退化」と呼べるものかもしれません。

自分はどこに在るのか?

ある経営者の社長室の本棚を見たことがあります。読書好きを自認するだけあって、確かにおびただしい量の蔵書でしたが、驚いたことにその大半がいわゆるハウツー本でした。私が学生時代や二十代の頃に手にしていたような「〇〇時間で分かる〇〇」「漫画で分かる〇〇」など実に手軽なやささか恥ずかしくなるようなタイトルが並んでいました。会話をしている言葉は巧みなのですか、なかなか経営者としてのビジョンや理念を聞き出せませんでした。「社長としてはどう思うのですか?」と訊いても「まあ、色々な考え方があると思いますが…」と評論家のような話を続けます。

「Google先生に訊くな!」

飛行機や電車の時刻、明日の天気、訪問先の地図等はGoogleで検索しても良いと思います。しかしながら、生き方や考え方や理念は、ネットには転がっていません。「いや、考えるヒントくらいはネットにはあるのではないか」と言われるかもしれませんがそれすらも検索をした段階で誰かの思考の枠組みに囚われてしまっています。Google検索の上位2つか3つの記事を読んで、分かったような気になってはなりません。人生や経営に於いて【答】などたやすく見つかるわけではなく、簡単に見つけてもいけません。自分の中の不安や葛藤や希望からしか自分の進むべき道は見えてきません。たかだかここ十数年の技術革新によって、社会や個人が希薄化してきているように感じています。古臭い言葉ですが孟子の「千万人と雖も吾往かん」という気概が必要です。アンサーコレクターでは混迷する今を乗り越えては行けません。